

科目	病理学	担当	山本 直樹	履修学年	1年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

解剖学や生理学の知識を踏まえ、様々な病気の原因、発病から病気の進行のメカニズムなどについて学習する。

循環障害、進行性病変、退行性病変、炎症、免疫異常、腫瘍、代謝障害、先天性疾患などの病理病態について、様々なトピックスを交えながら解説し、病気についての知識、理解を深めることを目的とする。

【履修注意】

国家試験の受験や資格取得後の臨床の現場において、必要な知識を習得する科目であるため欠席、居眠りなどをしないこと。シラバスに基づいて講義を行うので、予習・復習を行い自己知識の整理に努めること。

【評価方法】

中間まとめと期末試験の2回の試験結果(ともに60点以上)で合格と評価する。受講態度も重要な評価対象とする。受講態度が悪い学生は欠席扱いとすることがある。

【試験について】

筆記試験:記述式(中間まとめと期末試験の2回実施する。2回とも60点以上で合格とする)

再試験対象者の条件:課題レポートの提出(レポートを提出しない場合、再試験の受験資格を与えない)

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針です。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要である。

【教科書】

書籍名:はじめの一步のイラスト病理学 著者:深山正久(編集) 出版社:羊土社

※ 講義ごとにプリント、資料、過去の国家試験問題などを配布する。

【参考書】

書籍名:なるほどなっとく!病理学 病態形成の基本的なしくみ 著者:小林 正伸 出版社:南山堂

書籍名:シンプル病理学【改訂第7版】 著者:笹野公伸、岡田保典、安井 弥(編集) 出版社:南江堂

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	医学と病理学・環境と疾病	医学史における病理学の変遷・環境と疾病の関係
2	細胞の傷害・増殖・修正・再生	細胞傷害(変性、適応、萎縮、過形成、肥大、化生、細胞死、再生)
3	循環障害-①	循環障害の病態と分類(充血、うっ血、浮腫、出血)
4	循環障害-②	循環障害の病態と分類(虚血、血栓、塞栓、梗塞、側副循環)
5	急性炎症・慢性炎症-①	急性炎症の病態と分類(炎症の徴候、因子、細胞)
6	慢性炎症-②・免疫機構の基礎	慢性炎症の病態と分類(プロセス、分類、転帰)と免疫機構
7	免疫異常	アレルギーのメカニズム、自己免疫疾患
8	中間まとめ	1~7回目の講義に関する試験
9	感染症	感染症の病態分類(感染経路、防御機構、病原体に対する反応)
10	腫瘍の概念と分類	腫瘍の概念と分類(良性と悪性腫瘍、腫瘍の分化度、発癌機序)
11	腫瘍の発生要因	腫瘍の発生と進展と転帰(異型性と異形成、腫瘍の進展・転移)
12	遺伝と先天異常	遺伝性疾患と先天異常(先天異常と奇形、遺伝病と染色体異常)
13	代謝異常	代謝異常の病態と分類(タンパク質・脂質・糖の代謝異常)
14	老化	加齢のメカニズムと機序(老化による細胞変化、老化と疾患)
15	運動器の疾患	運動器疾患の病態(骨、軟骨、関節、筋肉、軟部組織の疾患)
16	期末試験	9~15回目の講義に関する試験